



# いたばし ネットワーク ニュース No.5

発行：SDGsいたばしネットワーク

発行日：2022年10月1日

※SDGs：「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略。国連サミットで採択された、2016年から2030年までの国連目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として置き去りにしないことを誓っています。

## もくじ 「いたばし共生社会づくりプラットフォーム」発足へ！

- 表紙 「2022年(令和4年)度総会開催」・・・ 1
- 特集(地球号) いたばし地域共生社会づくりプラットフォーム 発足  
「共生社会プラットフォーム」設立趣旨・・・ 2～3
- 地域ブロック活動状況報告(板橋区内を6ブロックに分け活動)・・・ 4
- 課題解決プロジェクト活動状況・・・ 4～5
- 表現プロジェクトの活動(「誰も置き去りにしない」社会を願って、劇団銅鑼の取組み)・・・ 6
- トピックス(ふれあい祭り、民間助成事業情報交換会、エコライフフェア夏)・・・ 7
- 掲示板(告知、募集、発信元情報など)・・・ 8

2022年6月26日(日)10時～12時、蓮根地域センターにおいて「2022年(令和4年)度総会」を開催いたしました。



総会の議題は第1号議案から第5号議案まで5件で、会員130名中、出席者31名、委任状49名の計80名の賛同(61%)により、全議案が可決成立いたしました。

- 第1号議案 2021年(令和3年)度事業報告
- 第2号議案 2021年(令和3年)度収支会計報告・および監査報告
- 第3号議案 2022年(令和4年)度事業計画(案)
- 第4号議案 2022年(令和4年)度収支計画(案)
- 第5号議案 2022年(令和4年)度役員(案)

※2022年(令和4年)度の議案は全て承認されましたので、今後は(案)を削除し発行いたします。



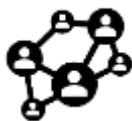
「一人の命の重さ」とSDGs「誰も置き去りにしない・されない」の理念を思う

——命が数量化される悲劇を教訓に——

代表理事 加藤 勉

私たちに問いかける出来事が絶え間なく多様に起き続けている。9月5日に起きた幼稚園児の送迎バス内放置による熱中症死亡事故がここ1週間ほどメディアで取り上げ続けられている。想像力が及ぶ、3歳児の「置き去りにされた」悲惨な事故である。一方でロシアによるウクライナ侵攻は半年余になり、一人の死にスポットが当たることはほとんどなくなっている。戦争がもたらす「数量化されてしまう命」の悲劇だ。コロナの悲劇も、この「数量化」が根底にあるように思われる。災害も同様である。これらの状況の中であって、改めてこれらを教訓にして「誰も置き去りにしない・されない」の理念を再確認し、共に歩んでいきたいと強く思う。

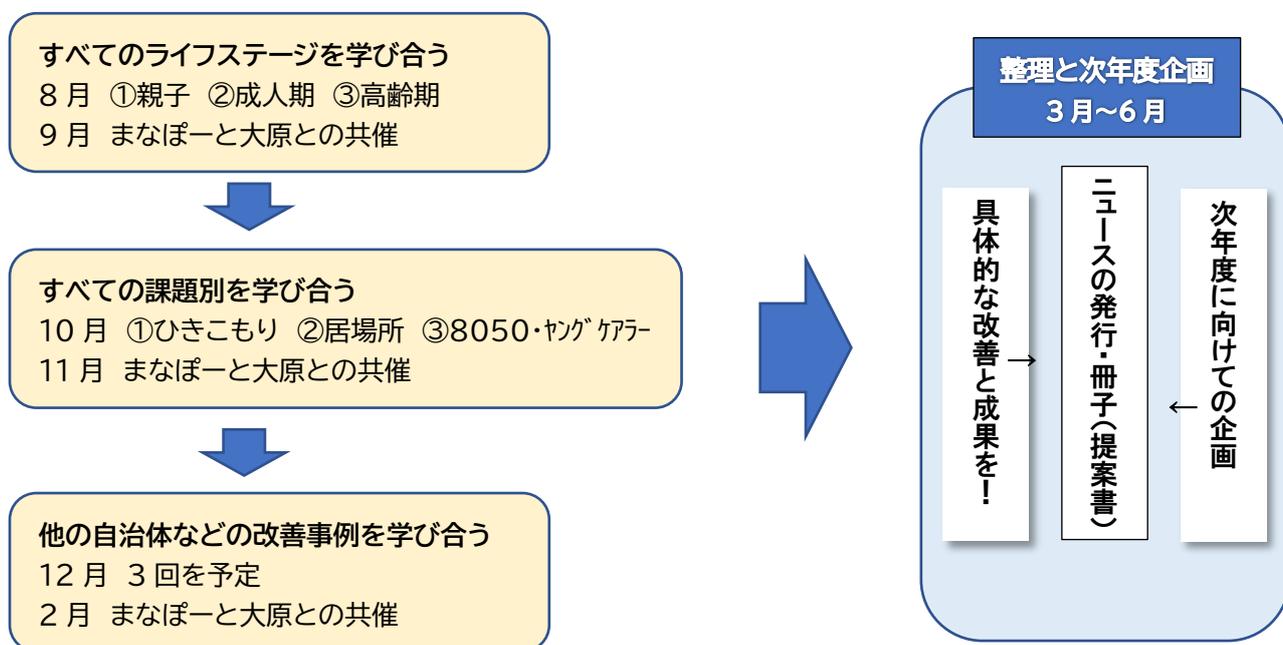
## □(地球号) いたばし地域共生社会づくりプラットフォーム 発足



板橋区の10年計画の地域保健福祉計画は今年度から令和7年度までの4年間で最終の第3期となります。令和2年社会福祉法の改正で創設された『重層的支援体制整備事業』は相談支援や居場所づくり、地域コーディネートなど、様々な機関が協働する共生社会づくりを目指しており、この事業も区の計画に盛り込まれています。しかしまだまだ活発化しているとはいえません。この事業を行政との協働に関わる根拠として私たちは今、共に学び合い支え合うネットワークを構築し、率先して地域課題の解決を図ろうと立ち上がりました。向こう三軒両隣。多様な人々がつながり誰もが心豊かにこのまちで暮らせることに思いを馳せて。

### ■ 実施概要 ■

前半の6ヶ月間は学び合い、後半6か月間を整理と次年度企画で実施。  
その後、具体的な共生社会づくりの積み重ねを目指します。



2つの視点 ・SDGs「誰も置き去りにしない・されない」という視点  
・国、自治体、関係機関が取り組む“地域共生社会づくり”につなげ、さまざまな関係者との連携や協働を基本とした「支え合いのまちづくり」という視点

### ■ 活動報告 ■

2022年7月9日の発足式  
森良氏による記念講演「みんなが安心できる重層的コミュニティづくり」では、弱者だけでなく全員が安心できるプラットフォームとして重層的アウトリーチと居場所づくりが成功している大阪市西成区の事例を紹介。板橋の具現化をみんなで考えました。





活動の第一弾はライフステージ別の学び合い。3ステージ別にみんなのセンターおむすびで開催。各分野で活躍する方々から現在の活動と、そこで起きている各種の問題解決に向けての考え等を述べていただきました。

#### 親子 8/6

子育てをしにくい環境にある中で、課題の解決に必要とされるのは「寛容」と「早期介入」。周囲が気付いて次につなげる力が必要。制度施策下での支援には制限が伴い、地域の受け皿であるボランティアには多様化する利用者の抱える問題に対応しきれなくなっている、という立場の違いによる課題も見られました。

#### 成人期 8/11

「ひきこもり」の問題。8050問題や孤立した介護、ヤングケアラーなど様々な生活問題が引き金となり地域とのつながりを欠いている。ここでも早期介入の必要性が課題となりました。また、若者の価値観の変化による未婚化や秘密主義、経済的貧困等が、生きづらさや地域からの孤立を招いていることも課題として挙がりました。

#### 高齢期 8/20

各家庭の事情による様々な問題に加えて、コロナ禍による行動制限が高齢者にさらなる問題をもたらしました。町会や民生委員の努力は大きな力になっています。高齢者には話し相手の必要性。地域に相談しない閉ざされた介護を発見して介入し関係をつくる必要があります。一方的にならない尊厳のある支援が大切。

「平等原則」の行政では「誰も取り残さない」制度をつくることは不可能。制度の狭間対策の地域福祉に NPO としての役割があるのではないのでしょうか。行政と連携した相談体制の確立が重要です。



このプロジェクトには東京大学と東京学芸大学の学生が参加しています。教科書では学べない現場の「声」を将来にぜひ、活かしてもらいたいですね。若い力に期待します！

#### ボランティア市民活動フォーラム 共催:まなぼーと大原(大原生涯学習センター)



3回の「ライフステージを学び合う」を整理しました。(9/11(日))

#### 第1部 事例を通じた課題提起

親子: 鈴木佑輔氏 (教育支援センター スクールソーシャルワーカー)

成人期: 佐藤吉行氏 (NPO 法人 good! 副代表)

高齢期: 小澤徹氏 (高島平介護センター 主任介護支援専門員)

#### 第2部 “新たな発見!” 共生社会づくりに向けた課題の整理

コーディネーター 森良氏 (NPO エコ・コミュニケーションセンター代表)

#### 第3部 みなさんで知恵を出し合ひましょう! 全員一言! の中

“その人なりの幸せ”という言葉が印象的だった。

グループごとにブレインストーミング。  
第1部からキーワードを見つけて課題を整理、発表しました。

からは課題別の学び合いがスタートします。

※詳しい報告は「共生プラットフォームニュース」をご覧ください。

## □地域ブロック活動状況報告(6ブロックの活動状況)

### 6. 高島平・蓮根・舟渡ブロック

昨年度から2019年の台風19号以来、高島平・蓮根・舟渡地区における浸水予想区域の課題に取り組んでいる。高島平地区は、『高島平一号幹線』があるので浸水区域にはならないという風評があり、真偽を問うために2022年7月21日(木)、『浮間水再生センター』にSDGsまちの学校高島平のメンバー6名で取材に伺った。一号幹線は、雨水対策のための下水道管で、1時間50mmまでの降水に対応出来、それ以上雨が降ると道路等に溢れるという事で、一号幹線は荒川・新河岸川の河川氾濫には対応できない事が判明した。



### 5. 成増・赤塚・徳丸ブロック

6月19日に開催された「まなぼーと成増フェスタ」に参加しました。会議室1室を専用に借りることができ、SDGsいたばしネットワークの活動案内パネル展示のほか、「音ごはん」のミニコンサートや劇団銅鑼の寸劇、腹話術さんちゃんによるカルタ大会などで、SDGsの活動を紹介するなど盛況でした。

### 1. 中台・常盤台・富士見ブロック

SDGsについて考えよう「学習会の予定」  
NHKスペシャル『2030未来への分岐点』をもとに語り合う学習会を行います。  
10月23日(日)午前 常盤台地域センター  
11月27日(日)午後 中台地域センター  
12月25日(日)(未定)富士見地域センター  
小学生の参加も呼び掛けて、「多世代での話し合い」ができるよう期待しています。(QRコードから案内参照)



### 4. 志村・清水・、前野ブロック

地域住民の視点からSDGsを学び、自分事として一人ひとりが出来ることを真正面から考え、多種多様な人物がそれぞれの意見を持ち寄り、対話する事で解決に結びつける手法を探りながら、より具体的な行動に移す。まずは、毎月募金をしてSDGsの取り組みをしている団体に寄付をする。また具体的な活動として、『たすけあい清水』の具体化、『まちの学校としてのイベント(MISYOU)の開催』などを計画している。

### 3. 板橋・仲宿・熊野ブロック

SDGs目標11(まちづくり)、目標17(パートナーシップ)を主とし、昨年度から継続して災害時の支え合う街づくりをテーマに活動する。  
・防災散歩の実施  
・東京マイ・タイムラインの普及活動  
・町会や地域センター、支え合い会議との連携や若者を活動に引き込む施策など  
「自分ごとと考える防災意識を啓蒙する」



### 2. 桜川・大谷口・仲町ブロック

地域や学校と協同学習できるよう模索する。令和4年度の「SDGs学習会」は石神井川流域治水対策を学び、6月のエコポリス「エコライフフェア夏」と「ふれあい祭り」で展示しました。「子ども食堂の開設」はコロナ禍で延期しますが、9月上板橋第二中学校「上ニテラス」で「フードパントリー」を開催することができました。今後、12月第2回フードパントリー×試食会、3月第3回フードパントリー×野菜マルシェを開催する予定です。



## □課題解決プロジェクトの活動状況

### (1)「荒川流域防災住民ネットワーク 2022」現状報告

池田優(第2回荒川流域防災住民ネットワーク実行委員会 共同代表/ワーカーズコープ)

2019年の台風19号被害を契機に「SDGsまちの学校 高島平」と「新河岸町会」が2020年6月から共催した水害に関する学習会(4回)を通じ、“この学びを広く長期的な視野で継続していかなくては”との機運が参加者の間で高まった。ここに「荒川流域」という新しい地域運動の視座が生まれ、広域住民連携による「第1回 荒川流域防災住民ネットワーク」を2021年11月21日に高島平地域センターで開催。埼玉や江東五区からも多数参加を得て多くの連携や学習が生まれ、2022年11月に第2回のネットワーク会議を開催することとなった。

第2回に向けた実行委員会を4月スタート。最初の課題は「実行委員長を選出」であった。

第一回は板橋のメンバーが運営の中心を担ったが、今後は多くのエリアが主体となることが望ましいなど、多くの議論があったが、第2回は過渡期として板橋エリアが中心を担いつつ、他エリアにバトンを渡していくことが大事なテーマとなっている。

5月実行委から本格的な議論を開始。共同代表三名(山崎:舟渡町会、原田:SDGsいたばしネットワーク、池田:ワーカーズコープ)を中心に議論を進め、第2回の骨子が固まりつつある。重要なテーマは「誰も取り残さない早期避難の実現」。水害は発生の数日前に予測ができる。この「早期避難」を考える過程で、要援護者の早期避難がいかに困難であるか…が可視化されたことは、自分にとって大きな学びであった。また、「要援護者名簿」「地区防災計画」など専門性の高い課題とともに、「外国ルーツの人や女性の視点の導入」「子どもの参加」「企業など外部連携促進」など意識されているのが第2回の特徴であり、大東文化大学防災サークル“ステラ”を筆頭に多くの学生・若者が実行委に参加してくれたことから生まれた成果である。

「第2回荒川流域防災住民ネットワーク2022」11/20(日)10:00~16:15

板橋区立舟渡小学校体育館にて開催。参加申込みは

QRコードまたはsdgs-itabashi@mbr.nifty.comへ



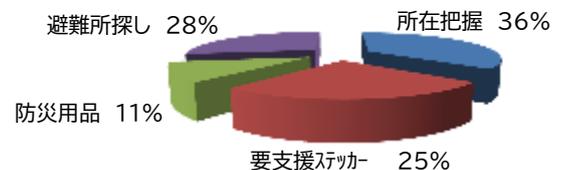
## (2)板橋・災害に備える会

原田華代(SDGs いたばしネットワーク)

近年、気候変動の影響と思われる巨大台風、豪雨水害、乾燥による大規模火災、大雪、大地震の発生、これにともなう大津波など、世界各地で大災害が起きています。身近な例では、2019年10月の台風19号で荒川の氾濫・決壊の危機を経験しました。この時に逃げるのが難しい人々の命を見つめなおしました。そして区内の避難困難者と日頃の支援者に向けアンケートを実施(2021年10月)しました。462名の回答を通して改めて身体の不自由なお年寄り、障がいを持つ人、程度を問わず一人で逃げるのが困難な“要支援者”など大勢の方が命の危険を感じている実態が分かりました。(東京新聞11月19日朝刊に記事掲載)このアンケートをもとに2021年11月21日に荒川流域関係者116名が参加し「第1回荒川流域住民防災ネットワーク」を開催し「誰もが安心安全の共生地域社会づくりをすすめる—板橋・災害に備える会」の発足に向け準備を進めることと致しました。

国や区の進める「共生地域社会づくり」の具体的な事例として今後活動を進めてまいります。

災害時に人命を守りために必要なこと



### —板橋・災害に備える会の発足目的—

誰もが安心安全の共生地域社会づくりをすすめる

- ① 犠牲者を出さない— 要支援者の現状と課題を整理し、方策を提案・要望していく
- ② “自助・共助・公助”の役割と協働の推進
  - ・「災害の時、私を助けてください」と日頃から自分の存在を周りに繋げておくのが自助
  - ・その声に耳を傾け向け応える人を増やしていくのが共助。
  - ・たすけあいの関係をシステム化、制度化するのが公助
- ③「地域に理解と繋がり」をつくる— 介助の仕方など“交流と講習・学習会”を実施する
- ④ネットワーク構築を協働で推進する— 区、関係団体、当事者(家族なども)、町会、民生委員、事業所、防災ボランティアなどと連携していく

今後の計画： 2023年2月、5月、8月、11月の最終日曜日に「防災セミナー」を計画の予定です。

## □「誰も置き去りにしない」社会を願って 劇団銅鑼の取り組み

佐藤文雄(劇団銅鑼)

私たちは、「演劇の持つ力を社会に生かす」をテーマに、生きづらさを抱えている若者たちへの支援活動として、2022年1月に「Let's try! プロジェクト」～若者演劇ワークショップ～「恥知らずのカブ」を銅鑼アトリエで上演しました。そして、6月12日「第40回板橋ふれあい祭り」、19日「まなぼーと成増フェスタ」では、「環境」「働きがい」「平和」をテーマに、プロジェクト卒業生有志の若者と、子どもから大人までの板橋区民による、寸劇「ショートドラマ de SDGs」を発表しました。

下記に、参加した若者たちの感想、観劇された方々からのアンケートを記載します。私たちの活動の一端を知っていただければ幸いです。そして、この一連の活動を支えてくださった、全ての皆様に、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。(尚、紙面の都合上、一部のみ掲載させていただきました)

### Let's try! プロジェクト～若者演劇ワークショップ～ 1期生 「恥知らずのカブ」

#### ○参加者した若者たちの感想

・上手いかず自己否定と焦りだけで若い時をただ時間だけが過ぎてしまう中で、このプロジェクトに参加して大切な仲間との出会い、自分を見捨てない大人たちがいると知ったことが私の支えでした。/・私は2歩目を踏み出すことができました。

完璧になれない若者たちの勇気を踏みしめた一歩。/・誰かと一緒に作品を創ることはとても楽しい経験でした。でも振り返れば楽しいことだけでなく大なり小なり衝突があり、劇団の方々が緩衝材となり、その中で私たちは仲間になった。/・緊張しましたがとても楽しかった、また機会があれば参加したい。/・一人でできることと違って表現で他者とつながる経験は何事にも変えがたい体験だった。/・いまは、夢だったんじゃないかと思う日々。舞台に出る前と今では別人みたいだと言われる。

#### ○観客からのアンケート

・辛いこと悲しいことや社会からの疎外感や孤立を経験している若者が何かを伝えたいという「場」が絶対必要で、社会が寛容であることを願っている。/・家にこもっていて人に会うのが怖いと言っていたが毎日練習に行き変わった。/・大勢の前で発表はとても勇気があることで、練習やセリフを覚えるのも大変だったと思うが、それを乗り越えそれぞれの想いや大きな声で自己主張できて親としても本当に嬉しい。



### 寸劇「ショートドラマ de SDGs」

#### 「アヤとアシャンポン」「ブルーライトハッツの神様」「新説桃太郎合戦」

#### ○観客からのアンケート

・だいたいなテーマが15分の短い時間でわかりやすく表現されていて、観やすかったです。/・今回劇を見てから、手を洗ったりシャワーを浴びたりなど水を使う際に、ふとアシャンポンを思い出して以前より気をつけて水を使うようになった。/・ブルーライトハッツの神様は労働環境への問題提起と、登場人物がすごい一歩を踏み出していく話に、最初はどうなるんだろうととまどいながらも、最後に二人が下した決断には素直にびっくりしたし、がんばれとエールを送りたくなった。/・実際の二人がこういう人たちなんだと思い込んでしまう瞬間の連続で、視線を外(客席)に投げ続けるOLさんと、目を上げないベアシストさんの対比も緊張感があってよかったです。BGMが生演奏だとは思いませんでした。社歌の独唱も合わせて、それもとてもよかったです。/・桃太郎のお話は、ほんとうに普遍的なテーマですね。正義をかざすことは対立につながる。具体的な戦争でも、日々の心でも、“せーの”で武器を捨てられたら…と思います。



## ロトピックス(第40回板橋ふれあい祭り)

コロナウイルス蔓延のために3年ぶりに6月12日(日) 板橋区中央公園をメイン会場として開催されました。会場飲食は禁止、各ブースの人数制限など、従来通りとはいきませんがたくさんの方にご参加頂きました。(スタッフも含め約2000人)

SDGsいたばしネットワークは、防災体験、エコリサイクル、水害対策などのブースを設置し、各ブースをまわるスタンプラリーも企画しました。開会式のオープニングセレモニーでは【音ごはん】のミニミニコンサートや「SDGsいろはかるた」の時間もあり、ステージでも活躍しました。別会場の常盤台地域センターでも劇団銅鑼が一般公募者と寸劇を披露しました。

スタンプラリーは当初用意した250名分のラリーシールがあつという間になくなってしまうほど盛況でした。

ふれあい祭りの運営には、例年、高校生大学生専門学校生など会場ボランティアに支えられ、今回も110名を超える方が前日の会場設営準備から当日終了後の片付け撤収作業に至るまで、一人一人ができることで貢献するという大きな善意のうねりを感じることができました。またこの日は近隣の小学校からも、校長先生と4名の児童が、案内パネルをもって場内の感染対策の呼びかけを行っていただきました。

このような若い力の躍動は、これからのふれあい祭り、これからのSDGs、そしてこれからの社会に大きな希望と確信となりました。来年もまた会いましょう。



## ロトピックス(民間助成事業情報交換会)

7月29日 東京ボランティア・市民活動センターで「民間助成事業情報交換会」が開催されました。これは多くの社会問題が顕在化している中で、地域で様々な取り組みを行っている団体の活動報告を通して、民間助成団体の助成活動のヒントを探る機会と位置付けられ、今回は約30の団体の参加がありました。「SDGsいたばしネットワーク」の活動状況の報告では「発足までの経緯」「地域ブロックの活動」「課題別プロジェクトの活動」「荒川流域防災住民ネットワークの取組」「冊子づくりや『SDGsかるた』製作」など、ありのままの姿を語ってきました。

今後の助成活動が私たちの今後の活動の支えとなることを期待します。

## ロトピックス(「エコライフフェア夏」に出展)

6月環境月間に板橋区立エコポリスセンターで開催され、SDGsいたばしネットワークは石神井川流域の治水対策をテーマに出展しました。



## 掲示板 — お知らせ & 会員・ボランティア募集 —



### お知らせ

①NHKスペシャル「未来への分岐点」(3回シリーズ)の視聴を各ブロックで計画しています。SDGsの現状を知り、これからの取り組むべき道を考えるために是非ご覧ください。

開催に関する情報は、ホームページか下記までお問い合わせください。

②劇団銅鑼では、生きづらさを抱えている若者たちの支援活動の一環として演劇ワークショップを開催しています。Let's try! プロジェクトin 東京～若者演劇ワークショップ～ 2期生募集中です。詳細はホームページをご覧ください。

③「第2回荒川流域防災住民ネットワーク2022」開催

11月20日(日)10:00~16:15(受付開始9:30~) 会場:板橋区立舟渡小学校 体育館  
映像やトークセッション、朗読劇、会場展示など盛りだくさんです。

詳細および申込方法などは、ホームページをご覧ください。



### ご報告

SDGsいたばしネットワークは、東京都の「心のバリアフリー」のサポート企業として登録しています。

東京都の誰もが平等に参加できる社会や環境を目指し活動する企業・組織の“誓い”を登録する制度です。



### 募集

SDGsいたばしネットワーク・会員募集

「誰も置き去りにしない」共助(ともに生きる)・共生社会の実現をめざし一緒に活動しませんか? 個人・団体を問いません。区外の方もOKです。年会費は1,000円です。

ボランティア募集

一緒にSDGsいたばしネットワーク事務局の運営をお手伝いしていただけませんか。

ご興味のある方、詳しく話を聞きたい方は、下記までお問合せください。

編集後記:「人手不足」か? 2020年の国際調査で日本の労働生産性は、主要先進7カ国の中で50年間最下位だそう  
だ。生産性は超簡単には「生産性=出力/入力」、日本はドイツに比べ約1.2倍も労力が必要となる。(諸説あり)  
50年前と言えば私が社会人になったころ、当時に比べると比較しようもない程IT化が進み世の中は便利になった。定年  
も変化し65-69歳の就業率は5割を超えた。なのになぜ生産性に反映されない、人手不足が毎回のトレンドなのだろう。  
冒頭、代表理事の記事にある幼稚園送迎バスの痛ましい事故、後日報道された識者の意見は、保育の現場は慢性的な  
人手不足、戦後のままの保育士配置基準、進まない待遇改善、姿を見ずにシステム任せ、そして意識の問題、等々。ここ  
でも生産性の悪さが悲劇につながっている様に見える。でもどうだろうか、SDGsが導くこれからのポダレス社会は。  
思い出すのは「みんなちがって、みんないい」との金子みすゞの童謡。今回の特集は“共生社会”であり、その実現に向けた  
活動が今の延長線上としない事を約束として、ユニークな発想がSDGs目標達成への秘策であると思う。(a)

SDGs  
いたばし  
ネットワーク  
ニュース

第5号

2022年10月号

発行者: SDGsいたばしネットワーク代表 加藤 勉

発行日: 2022年10月1日

〒173-0004 板橋区板橋3丁目63-5 (みんなのたすけあいセンターいたばし内)

Tel: 03-5944-1366 Fax: 03-5943-1888 Mail: sdgs-itabashi@mbr.nifty.com

URL: <https://www.sdgsitabashi.org/>



「いたばしからSDGs」  
の歌はこもものQR  
コードから聞くことが  
できます。  
ぜひお聞きください。